

B1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

カレーは大量の豚肉が入っていて、辛いものが食べられない子供にはメリケン粉をといいたものを入れてトロ味をつけ、今ではホワイトソースと云うようなもので白かった。大人用にはそれにカレー粉を入れたものだった。やたら人蔘が多かった。子供たちはそれがカレーだと思って、大喜びで食べた。

振り餅も細長い木の箱に並べた。一番大量にあるのはいかだった。まぐろは捨じられない程薄くそぎ切るのでもらひがすけて見えた。下の株は、まぐろのことを赤いかと云っていた。干ししいたけをあまからく煮たものがのっかっている事もあった。

焼き蒟蒻は「ほうれん草と五子、しいたけとシクンのでんぶが入っていた。やたら太かった。酔ってしぼったふきんや時々包丁をふき、はじっこを手伝う私にくれた。

私はそんな時、母さん私が好きなのだろうかと思っただ。手伝うほうびのつもりだったのだろうか。少なくとも料理をしている時私をどなりたたりした事はなく、まるで気の合ったチームのようだった。

いわしのつみれ入汁の作り方も当然に私は覚えた。

私がどうしても食べられないものは鯛の味噌煮で、私は鯛の皮が青くくなくぬれ光っているのが気味悪くて、一緒に蒸したほうと味噌だけをごはんにかけて食べた。

家では好きさらいなと通用しなかった。弟はカキが嫌い、かわいそうだった。まカキなど見るだけでウツクウツクと吐き気を催さえていた。弟はつものだけで飯を食べていたのだろうか、よく思い出せない。

下の株は、母さんが作った振り餅めしは極上だったと云う。ただ塩をまぶしただけの振り餅めしかうまいというのはい

-1-

たいという事なのだろう。云われてみると、私が作る振り餅めしとはやはりちがう。

結婚して夫の実家に行った時、嫁に来るのに料理学校も行ってないのかと云われたが、昔の料理は豚肉とキヌエソ入りのすき焼きとてんぷらだけだった。やっぱ母と私は思い、私は母さんが優れた料理人であった事を知った。しゃれたものなどではなかったが、本当に基本的な家庭料理が身についた事は、母さん、あなたのおかげです。

(佐野洋子「シズコさん」による)

-2-

問一 □で囲んだ部分には、「私」と「母」についての話が挿かれています。この部分から読み取れる「母」の人物像について述べたものとして、最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- 1 巻き寿司の準備を手伝ったときに「私」にはじつこの部分をくれたように、料理を手伝ったときはいつでもほめてくれて、「私」の機嫌をとろうとする「母」。
- 2 巻き寿司の準備を手伝ったときに「私」にはじつこの部分しかくれなかったように、料理を手伝ったぐらいでは、たいしたこぼろはくれない嫌しい「母」。
- 3 巻き寿司の準備を手伝ったときに「私」にはじつこの部分をくれたように、料理をしているときは「私」に優しく「私」を仲間として認めてくれる「母」。
- 4 巻き寿司の準備を手伝ったときに「私」にはじつここの部分をくれたが、それ以外のときは、こぼろなど私たちきょうだいにほとんどくれない嫌しい「母」。

-3-

問二 この文章から、「私」の家の食事はどのようなものだったと考えられますか。次の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 料理上手な「母」が、いろいろな食材を使って、子供たちが喜ぶような料理を毎日作ってくれた。
- 2 料理上手な「母」が、いろいろな工夫をして、料理を作ってくれた。
- 3 料理上手な「母」は、いつもつうとは違う材料で料理を作ってくれた。
- 4 料理上手な「母」が、限られた食材で見た目に豪華な料理を作ってくれた。

問三 一節「やっ、だせと私は思い」とありますが、「私」が「やっ、だせ」と思った理由を、四十五字以上、六十字以内で書きなさい。

問四 この文章では最後の一文だけ「くです」が使われていますが、それによってどのような表現効果があるか書きなさい。

-4-

1 次の文章を読んで、図を見ながらあとの問いに答えなさい。

『よろしかったでしょうか』はよろしくないか』

「いらっしゃいませこんにちは。①こちらでお召し上がりでよろしかったでしょうか。」という言い方について考えてみよう。「よろしかったでしょうか」と言うからには、「私が推奨したところこちらでお召し上がりのお見受けしました」という意図があると言えよう。事前に客に関することを「推奨」するのも店員の仕事の一つである。この言い回しは、「事前推奨」の仕事。私を私(一応)果たしている、ということの表明である。そして、その「事前推奨」の結果が正しいか(正しかったか)どうかを、客に問うているのである。

一方この状況で「よろしいでしょうか」と言うことは、店員側は「事前推奨」せずにはただ質問を投げかける形になる。これを「事前推奨」の仕事放棄になるのではないかと考え、「よろしいでしょうか」ではなく「よろしかったでしょうか」を使う人もいるのではないだろうか。この背景には、「事前に推奨して、それが正しいかどうかを確認する形式をとったほうが、相手に対する心づかいになる」という発想があると言えよう。

また、「よろしかったでしょうか」は「自分が事前に推奨して判断したことの確認」というマイルドな形式をとっているのに対して、「よろしいでしょうか」は「いいかどうかを今すぐ判断せよ」という脅迫にも似た印象を受け取る人もいられるかもしれない。

つまり、「よろしかったでしょうか」は控えめな敬語であると考えて使っている人がいる(かもしれない)ことが予想できる。少々オーバーかもしれないが、「このようなことは店員としては当然分かっていべきことであり、あらためてうかがうのは大変失礼かもしれないが、念のため確認させてください」という意図で使っている人がいるのではないだろうか。

ただ、今回のデータと照らし合わせると、この②「控えめな敬語」の意図を伝えようとすると試みは、成功しないことが多いと思われる。

(図・文：横田雄大「『よろしかったでしょうか』はよろしくないか ～平成13年度(後半) ことばのゆれ全国調査から(1)～」による)

B10

-1-

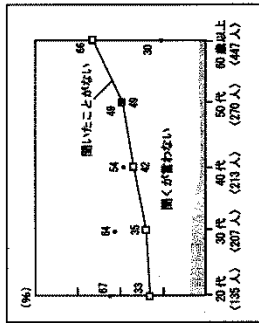


図2 「よろしかったでしょうか?」(年代差)

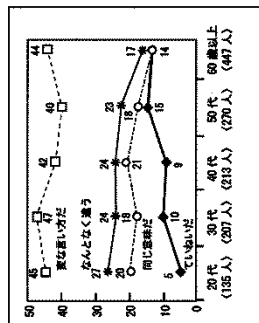


図4 「よろしいでしょうか?」の意味(年代差)

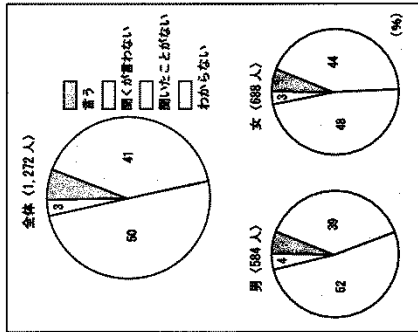


図1 「よろしかったでしょうか?」

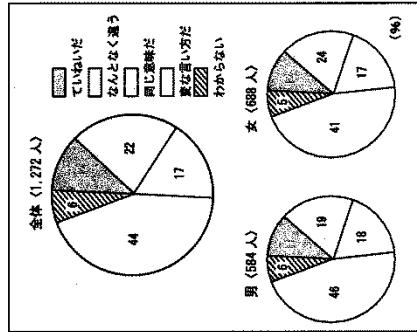


図3 「よろしいでしょうか?」の意味

-2-

■一 「よろしかっただでしょうか」という表現について、次の中から正しいものを一つ選びなさい。

- 1 この表現は20代だけが使ったり聞いたりする表現である。
- 2 女性よりも男性の方が、この表現を聞いたことがない人の割合が小さい。
- 3 年齢にかかわらず、半数近くの人がこの表現を聞いたことがない。
- 4 20代や30代の方が、他の世代に比べてこの表現を使う割合が多い。

■二 「よろしかっただでしょうか」という表現は「よろしいでしょうか」という表現と比べて、どのように受け取られていますか。次の中から当てはまるものを一つ選びなさい。

- 1 意味が「なんとなく違う」と思う人の割合が上の世代ほど多い。
- 2 どの年代でも「寒が言えただ」と思う人が過半数を占めている。
- 3 「よろしかっただでしょうか」が「ていねいだ」と思う人の割合は世代ごとに違う。
- 4 男女において、この表現に対するとらえ方に大きな差がある。

-3-

■三 一線部①「こちらでお召し上がりでよろしかっただでしょうか」には、どのような意図がありますか。次の中から当てはまるものを一つ選びなさい。

- 1 ここで食事をするかどうかを客に判断してもらう意図
- 2 自分が店員の職務をどれだけ果たしているかを、客に対して問う意図
- 3 ここで食事をするだろうという推察が正しいかどうかを、客に対して問う意図
- 4 自分の予想どおりに客が答えてくれることを期待する意図

■四 筆者が一線部②「控えめな敬語」の意図を伝えようとする試みは、成功しないことが多いと思われる。と考えたのはなぜですか。図も参考にしながら説明しなさい。

-4-

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

**特定の日に消費が増える品物**

毎年7月になると、「土用<sup>\*1</sup>の丑の日<sup>\*2</sup>」ののりが店頭で目立っています。

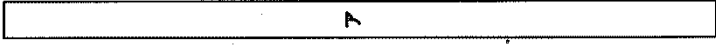
「土用の丑の日」にうなぎを食べる由来については諸説ありますが、<sup>徳島県</sup>讃岐国(現在の香川県)出身の平賀源内が発案したという説がよく知られています。

その説によると、夏にうなぎが売れないことを悩んでいたうなぎ屋が、なんとか売るために源内の所に相談に行ったところ、源内は、「丑の日に『う』のつく物を食べると夏負けしな<sup>い</sup>」という民間伝承からヒントを得て、「本日丑の日」と書いて店先に貼ることを勧めたそうです。すると、物知りとして有名な源内の言うことなら、ということと、そのうなぎ屋は大々繁盛<sup>はげ</sup>したそうです。その後、他のうなぎ屋もそれを真似るようになり、「土用の丑の日」にうなぎを食べる風習が定着したとされています。

実際に「土用の丑の日」にうなぎが食べられているのか、家計調査(二人以上の世帯)の結果から見てみましょう。

「うなぎのかば焼き」について、平成20年の一世帯当たり年間支出金額に対する各月の支出割合をみると、一年の中で土用の丑の日を含む7月が最も高く、30.7%を占めています。(図1)

さらに7月の「うなぎのかば焼き」の月間支出金額に対する日別支出割合をみると、「土用の丑の日」に当たる7月24日の支出が38.3%と最も高く、また、その前後の23日及び25日もほかの日に比べると高く、この3日間の合計だけで約50%となっており、



(図2)

「うなぎのかば焼き」について、平成20年の一人当たり年間支出金額を都道府県庁所在地別にみると、神戸市が1,573円で最も多く、次いで奈良市(1,526円)、大阪市(1,507円)の順となっています。(図3)

一方で、平成20年の「うなぎ」の国内取引量(農林水産漁業・養殖業生産統計)の全国に占める割合をみると、鹿児島県(35.5%)、愛知県(29.9%)、宮崎県(19.7%)、静岡県(7.8%)などが高くなっています。

\*1 土用は唐洪で、立夏の前18日を春の土用、立秋の前18日を夏の土用、立冬の前18日を秋の土用、立春の前18日を冬の土用といい、その初めの日を土用の入りという。ふつうは夏の土用を指している。平成20年の場合は、7月24日が土用の丑の日でした。

\*2 丑の日に十二支の丑に当たる日。

(総務省統計局ホームページ「特定の日に消費が増える品物」による。)

図1 「うなぎのかば焼き」の月間支出割合  
(全国・二人以上の世帯(平成20年))

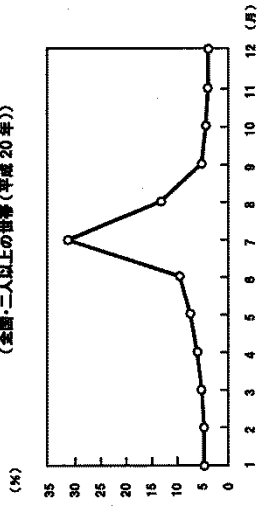


図2 7月の「うなぎのかば焼き」の日別支出割合  
(全国・二人以上の世帯(平成20年))

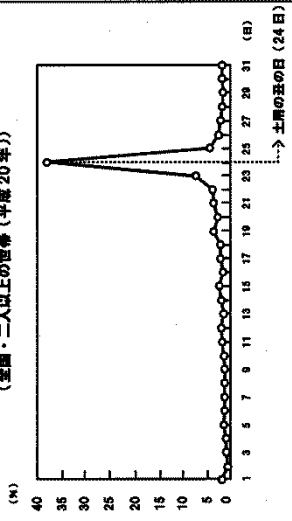
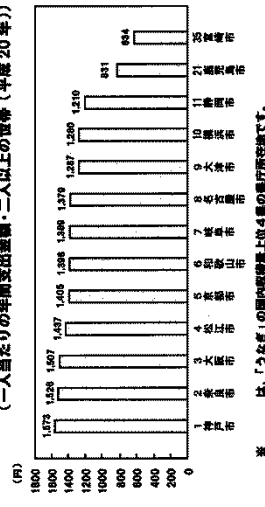


図3 「うなぎのかば焼き」の都道府県別年間の支出額  
(一人当たりの年間支出金額・二人以上の世帯(平成20年))



\* は、「うなぎ」の国内産価格上位の県の県庁所在地です。

問一 本文によれば——線部「土用の丑の日」にうなぎを食べることになったのはなぜですか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- 1 夏にうなぎが売れないため、うなぎ屋が安売りをしたから。
- 2 平賀源内が売るための宣伝を考え、それが広まったから。
- 3 「丑の日」に「う」の字のつく食べ物を食べる習慣が自然に生まれたから。
- 4 うなぎはもともと土用に食べるものだから。

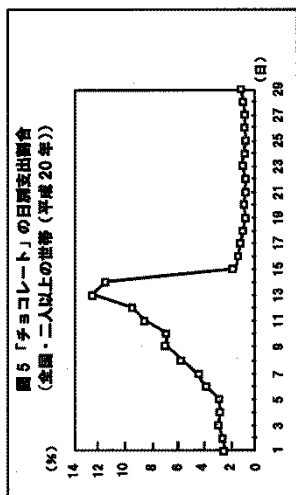
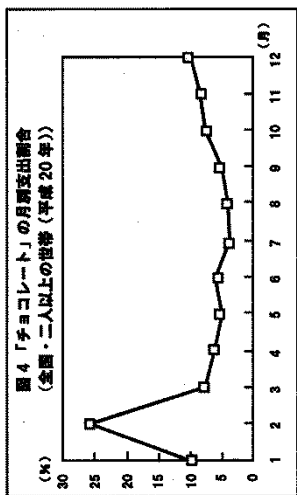
問二  に入れるのにふさわしい文章を次の中から一つ選びなさい。

- 1 夏バテ防止に栄養満点のうなぎを食べる人が多いことを示しています。
- 2 「土用の丑の日」に「うなぎのかば焼き」を食べるといふ昔ながらの習慣が明確に教れています。
- 3 「うなぎのかば焼き」が一般家庭でも食べられるようになったことを示しています。
- 4 「うなぎのかば焼き」は非常によく食べられています。

図三 本文及び図3から考えることを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 うなぎは年間を通してどの県所在地でも一人当たりの年間支出金額が多い。
- 2 うなぎの収穫量が多いところが、うなぎの一人当たりの年間支出金額も多いとは限らない。
- 3 鹿児島県と愛知県のうちうなぎの収穫高の合計は、全国の80%を占める。
- 4 うなぎの値段は、奈良市の方が横浜市よりも高い。

図四 特定の日に消費が増える品物としてはチョコレートがあります。チョコレートに関する次の図4と図5からは、どのようなことが言えますか。本文を参考にして書きなさい。



B12-4

B12-4B

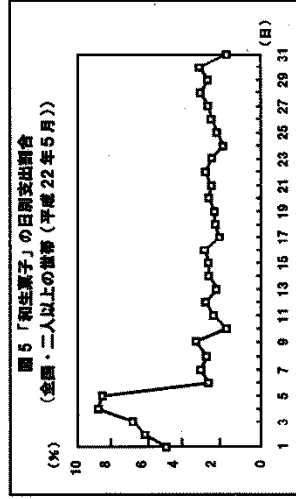
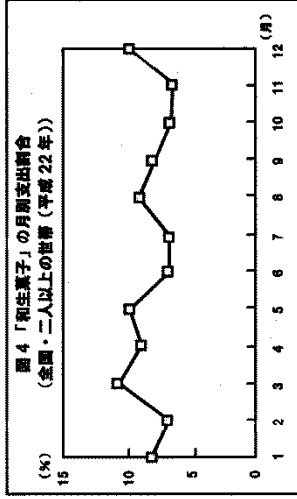


図4 特定の日に消費が増える品物としては和生菓子があります。和生菓子に関する次の図4と図5からは、どのようなことが言えますか。本文を参考にして書きなさい。ただし、日別支出割合は5月だけを取り出しました。



平成23年9月22日

## 平成23年度 文部科学省委託調査研究

### 「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

#### 実施概要

東北大学大学院教育学研究科  
教授 柴山 直

- 【研究委託】 委託元：文部科学省 委託先：国立大学法人東北大学
- 【研究題目】 全国的な学力調査の調査方法における技術的課題に関する調査研究
- 【実施目的】 全国的な学力調査実施において参加児童・生徒への実施負担を軽減するため、PISA等の国際的な学力調査ではすでに採用されている新しい調査方法である「重複テスト分冊法（アイテム・マトリックス・サンプリング）」の日本における適用ノウハウを具体化する。 ※重複テスト分冊法については資料1を参照ください
- 【昨年度成果】
- 1) 基本的なテスト技術の開発を終了した。
  - 2) 協力自治体教育委員会への個別フィードバックをおこなった。
  - 3) 「全国的な学力調査に関する専門家会議（平成23年10月19日）」で報告予定
- 【本年度目的】 昨年度の成果に基づき以下を実施する。
- 1) 数学問題の一部入れ替えによる学力の年度間比較の可能性を実証する。
  - 2) リーディング・リテラシーに焦点を当てた国語の実施。
  - 3) 数学と国語の相関分析による学力構造の明確化
- 【実施内容】
- 対象学年 中学3年生  
対象人数 中学3年生：約2400名  
実施方式 学校単位（参考：昨年度は新潟市教育委員会にご協力いたたいて学校を指定）  
実施時期 平成23年秋頃  
（調整の必要有り：11月中旬一週間の学校の都合の良い時間帯）  
実施時間 上記の期間内の2授業時間（数学・国語各1時間）（調整の必要有り）  
（説明や配布、回収の時間5分を含めて1授業時間50分）  
出題教科 数学・国語  
出題範囲 現行の学習指導要領の内容構成にあわせる  
国語についてはPISA型のリーディング・リテラシー問題中心  
現在問題を株式会社教育測定研究所にて作成中  
問題内容 国立教育政策研究所のチェックを受ける  
分冊数 8分冊【予定】  
解答数 中学校ともに一人当たり30問程度 問題冊子は回収  
解答方式 記入式  
個票返却 平成24年1月初旬 各学校へ郵送（国語の採点に時間がかかるため）

【学校のご負担】 実施にかかる部分のみです。採点等はすべて研究組織側でします。

【お返しする個票内容(主なもの)】

- 1) 解答した分冊に含まれている問題についての正誤情報
- 2) 割り当てられなかった分冊に含まれている問題については推定正答確率の値
- 3) すべての問題に関して学習指導要領の項目事項を記載

その他、市町村で課題とされているものがあればあわせて分析してお返しします。

(昨年度は全国学力調査の抽出校と希望利用校との学力差の有無のデータによる検証など)

※なお、本テストは全国の中での生徒・学級・学校の相対的な位置をみるものではありませんのでご注意ください。ただし、お返しする個票の中に、その生徒の得意な分野そうでない分野を推定確率で表示することで学習の役に立てていただければと考えています。

**資料1** 重複テスト分冊法の基本的な考え方

学力調査などで1年間の学習内容（学習指導要領の各事項）の全ての定着度を1回だけのテストで調べることは時間的な制約や児童生徒の負担を考えるとほとんど不可能です。重複テスト分冊法（Item Matrix Sampling）はそのような問題を解決するために考案された新しい調査手法です。この調査手法はPISAやPIAAC等の国際的な学力調査ではすでに採用されていますが、我が国においては、まだ馴染みの薄いものです。

重複テスト分冊法の基本的な考え方は、調査対象の受検者が、それぞれ異なるテスト冊子を受験しますが、分冊とよばれる各テスト冊子の中に含まれている互いに共通な問題項目ブロックを利用して、項目反応理論（IRT）を用いた等化（equating）という作業を行うことにより、全ての分冊を共通の尺度上で比較可能なようにするところにあります。いいかえれば、解いたテスト冊子が異なっても、互いに比較できる得点（尺度値）を計算することができます。このようなテストデザインを用いることにより、多種の分冊を生成できるため、測定したい領域の内容を、1回の実施であっても幅広くカバーすることが可能となります。

今回、御協力を得て行う調査の実際のテストデザインは下の図のようになります。この図では、たとえば分冊1には、ブロック1、2、3が含まれています。同様にその下の分冊2には、ブロック2、3、4が含まれています。いずれの分冊も設問数としては24になりますが、分冊1を受ける児童生徒と分冊2を受ける児童生徒が共通して解く問題はブロック2、3の16個で、残りの8設問は互いに異なる問題になります。このようにして分冊相互に共通な項目を含めながら、8つの分冊を準備して領域全体をカバーするのが重複テスト分冊法の考え方です。なお下図の設問数は説明のためのもので、実際には若干数増減します。

| 分冊番号 | 設問のブロック番号<br>(設問数) |                |                |                |                |                |                |                |
|------|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|      | 分冊1                | ブロック1<br>(8項目) | ブロック2<br>(8項目) | ブロック3<br>(8項目) |                |                |                |                |
| 分冊2  |                    | ブロック2<br>(8項目) | ブロック3<br>(8項目) | ブロック4<br>(8項目) |                |                |                |                |
| 分冊3  |                    |                | ブロック3<br>(8項目) | ブロック4<br>(8項目) | ブロック5<br>(8項目) |                |                |                |
| 分冊4  |                    |                |                | ブロック4<br>(8項目) | ブロック5<br>(8項目) | ブロック6<br>(8項目) |                |                |
| 分冊5  |                    |                |                |                | ブロック5<br>(8項目) | ブロック6<br>(8項目) | ブロック7<br>(8項目) |                |
| 分冊6  |                    |                |                |                |                | ブロック6<br>(8項目) | ブロック7<br>(8項目) | ブロック8<br>(8項目) |
| 分冊7  | ブロック1<br>(8項目)     |                |                |                |                |                | ブロック7<br>(8項目) | ブロック8<br>(8項目) |
| 分冊8  | ブロック1<br>(8項目)     | ブロック2<br>(8項目) |                |                |                |                |                | ブロック8<br>(8項目) |

図1 今回のテストデザインの概念図

さらに、今回の調査では、項目反応理論とよばれるものを利用して、ある生徒が受けなかった残りのブロック、たとえば分冊1を受けた生徒を例にとれば、その生徒がもしブロック3～5の問題を受けたとしたらどの程度の確率でその問題に正しく答えられるかという推定正答確率も計算します。その生徒は実際には32問しか解いていませんが、残りの32問についての情報も得られるということになり、その生徒の数学に関する学力の全体像を把握できようになっています。それが次のページの「数学調査結果シート」です。

詳しくは「日本テスト学会編『見直そう、テストを支える基本の技術と教育』金子書房」をご参照下さい。

## 数 学 調 査 結 果 シ ー ト

|      |        |     |       |   |   |      |   |    |   |
|------|--------|-----|-------|---|---|------|---|----|---|
| 学校番号 | Sample | 学校名 | △△中学校 | 組 | 1 | 出席番号 | 1 | 性別 | 女 |
|------|--------|-----|-------|---|---|------|---|----|---|

| 学年   | 領域  | 単 元  | 内 容   | 平均正答率 | 解いた問題の正誤 | 解かなかった問題の推定正答率 |
|--|---|--|---|-------|----------|----------------|
| 第一学年   | A数と式  | 【正負の数】<br>具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数の活用により表現し、活用することができるようにする。 | 正の数と負の数の必要性と意味を理解すること。  | 69%   | -        | 50%            |
|  |   |  | 小学校で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解すること。                              | 85%   | -        | 78%            |
|  |   |  | 正の数と負の数の四則計算をすること。  | 78%   | X        | -              |
|  |   |  | 具体的な場面での正の数と負の数の活用を表現し、活用すること。  | 62%   | -        | 38%            |
|  |   |  | 正の数と負の数の四則計算をすること。  | 85%   | X        | -              |
|  |   |  | 具体的な場面での正の数と負の数の活用を表現し、活用すること。  | 61%   | -        | 37%            |
|  |   | 【文字と式】<br>文字を用いて数量の関係を式などで表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。               | 文字を用いることの必要性と意味を理解すること。   | 72%   | -        | 49%            |
|  |   |  | 文字を用いた式による乗法と除法の読み方を理解すること。   | 86%   | -        | 81%            |
|  |   |  | 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。   | 76%   | X        | -              |
|  |   |  |   | 50%   | X        | -              |
|  |   |  |   | 55%   | O        | -              |
|  |   |  |   | 85%   | O        | -              |
|  | 【一次方程式】<br>方程式について理解し、一元一次方程式を用いて問題を解くことができるようにする。                                  | 数量の増加や減少などを文字を用いた式で表すことができることを理解し、式を用いて読み取りたい問題を解くこと。                                    | 72%   | O     | -        |                |
|  |   | 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や係数の意味を理解すること。   | 54%   | X     | -        |                |
|  |   | 等式の性質を基にして、方程式が解けることを知る。   | 52%   | O     | -        |                |
|  |   | 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面でも活用すること。  | 65%   | -     | 41%      |                |
|  |   |  | 52%   | -     | 26%      |                |
|  |   |  |   |       |          |                |
|  | B図形   | 【作図や実験】<br>観察、操作や実験などの活動を通して、円周率を求めたり作図したり図形の関係について理解し、図形に関する能力を養う。                      | 角の二等分線、線分の垂直二等分線、弧の中心角の基本的な作図の方法を理解し、それを具体的な場面でも活用すること。                   | 84%   | -        | 73%            |
|  |   |  | 平行移動、反射移動及び回転移動について理解し、二つの図形の関係について調べる。                                   | 67%   | -        | 61%            |
|  |   |  | 空間における直線や平面の位置関係を調べる。   | 51%   | X        | -              |
|  |   | 【空間図形】<br>観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形について理解し、図形の性質を調べる。                                       | 空間図形を描くことや平面図形の運動によって構成されるものごとを捉えたり、空間図形を平面上に表現したり平面上の表現から空間図形の性質を読み取りたい。 | 80%   | -        | 66%            |
|  |   |  | 図形の面の長さや面積及び基本的な柱体、錐（すい）体及び球の表面積と体積を求める。                                  | 37%   | X        | -              |
|  |   |  | 図形の面の長さや面積及び基本的な柱体、錐（すい）体及び球の表面積と体積を求める。                                  | 50%   | -        | 22%            |
| C関数  | 【比例と反比例】<br>具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関数について理解し、関数の関係を読み取りたい。 | 関数関係の意味を理解すること。  | 40%   | X     | -        |                |
|  |   | 比例、反比例の意味を理解すること。  | 43%   | X     | -        |                |
|  |   | 関数の意味を理解すること。  | 67%   | -     | 48%      |                |
|  | 【ヒストグラムと代表値】<br>適切に応じて資料を読み取り、コンピュータを用いたりするなどの手段を用いて資料の傾向を読み取りたい。                   | 比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること。   | 57%   | X     | -        |                |
|  |   | ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解すること。  | 59%   | O     | -        |                |
|  |   | ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること。   | 68%   | O     | -        |                |
| 第二学年   | A数と式  | 【式の計算】<br>具体的な事象の中から数量の関係を式で表し、その四則計算ができるようにするとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。                  | 簡単な算術式の加法、減法及び乗法と除法の計算をすること。  | 52%   | O        | 29%            |
|  |   |  | 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。                                      | 67%   | O        | -              |
|  |   |  | 目的に応じて、簡単な式を整理すること。   | 63%   | O        | -              |
|  |   | 【連立方程式】<br>連立二元一次方程式について理解し、それを用いて問題を解くことができるようにする。                                      | 目的に応じて、簡単な式を整理すること。   | 47%   | X        | -              |
|  |   |  | 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。  | 69%   | -        | 52%            |
|  |   |  |   | 61%   | O        | -              |
|  | 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面でも活用すること。   |  | 59%   | -     | 33%      |                |
|  |   |  | 73%   | -     | 52%      |                |
|  |   |  | 79%   | -     | 65%      |                |
|  | B図形   | 【平行線と角】<br>観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を読み取り、平行線の性質を基にしてそれらを読み取りたい。                     | 平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を読み取りたい。   | 80%   | X        | -              |
|  |   |  | 平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして、多角形の角についての性質を読み取りたい。                             | 75%   | -        | 39%            |
|  |   |  | 平面図形の合同の条件及び三角形の合同条件について理解すること。   | 58%   | -        | 41%            |
|  |   | 【図形の合同】<br>図形の合同について理解し、図形について調べる。   | 平面図形の合同の条件及び三角形の合同条件について理解すること。   | 75%   | X        | -              |
|  |   |  | 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。  | 53%   | O        | -              |
|  |   |  | 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。  | 67%   | -        | 54%            |
|  | C関数   | 【一次関数】<br>具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解し、関数の関係を読み取りたい。             | 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質や幾何的に読み取りたい。                               | 75%   | O        | -              |
|  |   |  | 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質や幾何的に読み取りたい。                               | 82%   | O        | -              |
|  |   |  | 事象の中には一次関数としてとらえられるものがあることを知る。  | 46%   | X        | -              |
| 【一次関数】<br>具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解し、関数の関係を読み取りたい。 |   | 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。   | 40%   | -     | 36%      |                |
|  |   | 二元一次方程式を連立方程式で表すこと。  | 75%   | O     | -        |                |
|  |   | 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。  | 46%   | -     | 25%      |                |
| D資料の活用   | 【確率】<br>不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて問題を解くことができるようにする。                 | 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。   | 75%   | O     | -        |                |
|  |   | 二元一次方程式を連立方程式で表すこと。  | 64%   | -     | 31%      |                |
|  |   | 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。  | 35%   | -     | 27%      |                |
|  | 【確率】<br>不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて問題を解くことができるようにする。                 | 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。  | 65%   | O     | -        |                |
|  |   | 簡単な算術式の加法、減法及び乗法と除法の計算をすること。   | 79%   | O     | -        |                |
|  |   | 簡単な算術式の加法、減法及び乗法と除法の計算をすること。   | 40%   | -     | 4%       |                |
| 【確率】<br>不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて問題を解くことができるようにする。          | 簡単な算術式の加法、減法及び乗法と除法の計算をすること。  | 46%  | -   | 14%   |          |                |
|  | 簡単な算術式の加法、減法及び乗法と除法の計算をすること。  | 45%  | -   | 18%   |          |                |
|  | 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明すること。   | 24%  | -   | 7%    |          |                |

表の見方  
 1) 「平均正答率」はこの調査を受けた人たちのなかでその問題に正しく答えられた人たちの割合です。数値が小さいほどむずかしい問題です。  
 2) OとXはあなたが実際に解いた問題の正誤・不正解をあらわしています。  
 3) 解かなかった問題の「推定正答率」は、あなたが受けたテスト問題の中にはその問題は含まれていないのですが、仮にこの問題を解いていたらどの程度正しく答えられるかを示したものです。

資料 4.1.4 実施概要：資料 2：調査結果シート 国語

国語 調査結果シート

|      |        |     |       |   |   |      |   |    |   |
|------|--------|-----|-------|---|---|------|---|----|---|
| 学校番号 | Sample | 学校名 | 〇〇中学校 | 組 | 1 | 出席番号 | 1 | 性別 | 男 |
|------|--------|-----|-------|---|---|------|---|----|---|

| 学年   | 領域     | 目標   | 指導事項の内容  | 平均正答率 | 解いた問題の正誤 | 解かなかった問題の推定正答率 |
|------|--------|--|--|-------|----------|----------------|
| 第一学年 | 「書くこと」 | 目的や意図に即し、日常生活にかかわることなどについて、構成を考へて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。         | (イ) 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段組の役割を考へて文章を構成すること。         | 17%   | -        | 24%            |
|      |        |  | 37%  | -     | 66%      |                |
|      |        |  | 19%  | -     | 19%      |                |
|      |        |  | 32%  | -     | 66%      |                |
|      |        |  | 62%  | -     | 88%      |                |
|      |        |  | 69%  | -     | 93%      |                |
|      |        |  | 85%  | -     | 96%      |                |
|      |        |  | 6%   | -     | 14%      |                |
|      |        |  | 27%  | -     | 49%      |                |
|      |        |  | 20%  | -     | 43%      |                |
|      |        |  | 52%  | X     | -        |                |
|      |        |  | 33%  | X     | -        |                |
|      | 「読むこと」 | 目的や意図に即し、様々な本や文章などを読み、内容や表現の確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。          | (ア) 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。                       | 70%   | -        | 96%            |
|      |        |  | 65%  | -     | 88%      |                |
|      |        |  | 45%  | -     | 68%      |                |
|      |        |  | 83%  | -     | 99%      |                |
|      |        |  | 73%  | -     | 95%      |                |
|      |        |  | 84%  | -     | 99%      |                |
|      |        |  | 90%  | O     | -        |                |
|      |        |  | 72%  | O     | -        |                |
|      |        |  | 64%  | -     | 93%      |                |
|      |        |  | 79%  | -     | 96%      |                |
|      |        |  | 68%  | O     | -        |                |
|      |        |  | 33%  | X     | -        |                |
| 第二学年 | 「書くこと」 | 目的や意図に即し、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。        | (イ) 自分の打書及び読みたい事案や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。               | 52%   | O        | -              |
|      |        |  | (ロ) 事案や事柄、書質や心構えが相手に伝わるように、説明や具体例を加えたり、語彙を工夫したりして書くこと。 | 69%   | -        | 93%            |
|      |        |  | 85%  | -     | 99%      |                |
|      |        |  | 19%  | -     | 19%      |                |
|      |        |  | 73%  | -     | 89%      |                |
|      |        |  | 6%   | -     | 14%      |                |
|      | 「読むこと」 |  | (イ) 文章全体と部分との関係、指示や指称の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 | 48%   | -        | 56%            |
|      |        |  | 42%  | -     | 69%      |                |
|      |        |  | 32%  | -     | 69%      |                |
|      |        |  | 17%  | -     | 24%      |                |
|      |        |  | 27%  | -     | 49%      |                |
|      |        |  | 42%  | -     | 48%      |                |
| 第二学年 | 「読むこと」 | 目的や意図に即し、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を通して生活に役立てようとする態度を育てる。 | (ロ) 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や経験と結びつけて自分の考えをもちよること。     | 52%   | X        | -              |
|      |        |  | (イ) 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や経験と結びつけて自分の考えをもちよること。     | 20%   | -        | 43%            |
|      |        |  | 62%  | -     | 88%      |                |
|      |        |  | 62%  | O     | -        |                |
|      |        |  | 33%  | X     | -        |                |
|      |        |  | 69%  | -     | 93%      |                |
| 85%  | -      |  | 99%  |       |          |                |

表の見方  
 1) 「平均正答率」はこの問題を受けた人たちの全体のなかでその問題に正しく答えられた人たちの割合です。数値が小さいほどむずかしい問題です。  
 2) OとXはあなたが実際に解いた問題の正解・不正解をあらわしています。  
 3) 解かなかった問題の「推定正答率」は、あなたが受けたテスト問題の中にはその問題が含まれていないのですが、仮にこの問題を解いていたらどの程度正しく答えられるかを示したものです。